



2006年

5月



## 見つめる

### ●目次

#### 特集 環境再生と資料館

「西淀川・公害と環境資料館」オープン記念シンポジウムから		
基調講演 環境再生の時代に公害経験から学ぶ	淡路 剛久	2
何も無いところから始まった	近藤 忠孝	4
公害は続いている。資料の活用を	澤井余志郎	4
保存しているだけでは宝の持ち腐れ	塚田 眞弘	5
公害患者の思いから資料館オープンへ	永野千代子	5
外へむけてもっとアピールしたい	高木 勲寛	6
地域に根ざした資料館に	大国 正美	6
シンポジウムのまとめ	佐賀 朝	7
〈活動レポート〉『環境アセスメント講座』に取り組んで考えたこと	渡辺 章	8
西淀川地域再生研究会がスタート	清水万由子	9
〈リレーエッセー〉楽しむ心	森脇 君雄	10
〈忙中一筆〉エコミュージアム館長	小田 康德	12

「西淀川に住んでいたが公害のことを知らなかった」――  
 (財) 淀川勤労者厚生協会の新人職員の研修会が4月4日、あおぞら財団で行われました。参加者は、これから西淀川区内の病院で理学療法士や看護師として働く職員28人です。

西淀川公害患者と家族の会の語り部から公害の被害や病気の話をきき、オープンしたばかりの西淀川・公害と環境資料館にて過去の西淀川の写真等、資料をもとに説明を受けました。

みな真剣に、話に聞き入り中には目に涙を浮かべながら話を聞く人も。

「自分も何かお手伝いできたら…」資料や語り部を通じて、公害の患者さんの苦しみや過去の歴史は大きく胸に響いたようです。

## 特集 環境再生と資料館

あおぞら財団附属施設として開館した西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）。今号は3月18日に開催したオープン記念シンポジウムのようなようすをご紹介します。

### 基調講演

## 環境再生の時代に公害経験から学ぶ

あわじ たけひさ  
淡路 剛久

### 「環境再生」は第三の環境政策

我が国の公害・環境問題はサステイナブルで無い形で推移し、1950年代、60年代までに蓄積されてきた公害・生活環境の悪化が一気に噴出した。90年代以降は地球環境の破壊という危機に直面している。それに対してこれまでの公害・環境問題対策はどうだったのか。50年代、60年代に行われたのは公害防止であったのだが、90年代に地球環境問題が発生するようになりあらゆる場面で環境が容量の限界を超えていることが明らかにになり、「環境負荷の低減」がいわれるようになった。これが第一の環境政策である。

1980年代半ばから廃棄物問題が深刻になってきたのに対し、出てきたのが「循環型社会」であり、これが第二の環境政策である。第二の環境政策を踏まえつつ、「環境再生」を

第三の環境政策としてあらゆるレベルで展開する必要があると我々は主張している。これは西淀川・川崎・尼崎・倉敷等の現場での現実の運動として起こっている。

現実の日本社会は環境への負荷、公害・環境破壊といったマイナスの遺産を至るところに残している。従って環境の負荷を少なくして循環させるだけでは日本の環境破壊は解決しない。ストックとしての公害・環境被害をどう解決していくのか。地方分権が進む中で、環境政策がどうなっていくかは分からない。環境負荷・公害環境被害が除かれていく可能性はあるが、市場というものは放置していけば何を起こすか分からないものである。

「環境再生」の目標というのは第一義的には被害者の完全救済、地域回復の運動である。「持続可能な社会」というのは現実には過去から将来にわたるこのような公害・環境被害のストックを直視して、それを視野に入れた政策展開でしか実現出来ないとと思われる。

### 公害経験をいかすために

昨年の11月16～17日に日本環境会議のメンバーで上海の大学での第三回日中公害被害救済ワークショップに参加した。中国で起こっている報道されている様々な公害被害を多かれ少なかれ我々は1950～70年代に経験

してきた。70年代頃からは公害に加え大規模公共事業や民間事業による環境破壊を経験してきた。その原因をつくってきたのは急速な経済成長を目指した新産業都市政策、工業化政策、何次にもわたった全国総合開発計画、産業活動としては専ら利益を追求した企業活動であった。

公害事件を分析していけば国・地方自治体がどの時点でいかなる政策、いかなる治療をとるべきだったのかが明らかになるはずである。例えば四日市公害では立地上の過失論がいわれ、水俣病関西訴訟では1959年の時点で対策がとれたはずだといわれた。しかし現実には人の健康と生活を守る、環境を保全するための法規制は常に後追いの状況で、必然的に悲惨な被害が続発した。50～70年代の日本は工業化・都市化・大量消費化の社会の進行であり、四大公害事件、大阪空港公害事件、新幹線公害事件等、森永砒素ミルク事件、カネミライスオイル事件、薬品ではサリドマイド事件、スモン事件等々が続発した。

この中でとりわけ注目すべきは、四大公害訴訟の展開が日本社会における訴訟の位置づけを大きく変える要因になったことである。日本は法嫌い・訴訟嫌いの意識を持っており、為政者・権力を持ったものは被害を権利と義務の問題から解決することを妨げる制度を準備した。調停制度はそういう形で利用され、示談という形でほとんどの被害は押さえ込まれていった。典型的な例は足尾事件、1969年の水俣病見舞金契約であったといえる。これに対して60～70年代に大きく意識を変える事になったのは、一つは自動車事故訴訟の飛躍の上昇、もう一つは公害訴訟である。四大公害訴訟は社会的問題・関心の大きさから





シンポジウムから

資料館の所在地

新潟県立環境と人間のふれあい館  
- 新潟水俣病資料館 -

〒950-3324  
新潟県新潟市前新田字新々岡乙364 - 7  
TEL. 025-387-1450 / FAX. 025-387-1451  
ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/fure-i/>  
休館日 毎週月曜日、年末年始  
開館時間 9:30 ~ 16:30

四日市市環境学習センター

〒510-0093  
三重県四日市市本町9-8 本町プラザ4階  
TEL. 059-354-8430 / FAX. 059-354-8431  
ホームページ  
<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/gakusyu/>  
休館日 月曜日、日曜日、祝日、年末年始  
開館時間 9:00 ~ 17:00

四日市再生「公害市民塾」  
<http://www.yokkaichi.kougai.tcup.ca/>

何もないところから始まった

こんどう ただたか  
近藤 忠孝

公害闘争が始まった時には、資料がなかった。43年前の弁護士二年目の時に東京都北区のゴミ焼き場訴訟の裁判を引き受けた。そのときは文献も何もなく結局負けただけが出発だった。新潟、四日市、イタイイタイ病、更に熊本と、公害裁判が次々提訴されたが、勝利の先例のない中で、暗中模索し、青年弁護士は、いずれも困難に直面していや。これを打開しようと、第一回公害研究会が開かれたが、敗北の歴史から学ぼうとした。

イタイイタイ病裁判提訴のとき、弁護団は被害を聞いてまわったが、患者は「イタイ」としか言ってくれなかった。「イタイ」ということは「痛み」の表現であり、これを我々が理解し、損害を徹底的に掴むことを決意した。イタイイタイ病を闘う中で、資料の重要性を実感したので、裁判記録全六巻を作成し、各弁護団も同じものを作っている。

被害者の目、科学者の知恵、企業の努力、この三つが揃うと、「無公害産業」が実現する。公害根絶という人類の目指す大きなものを実現するための資料館を大いに発展させたい。

公害は続いている。資料の活用を

さわい よしろう  
澤井余志郎

1977年の四日市市政100周年に向けて、『四日市市史』全二十巻の編纂がなされた。それに合わせて収集した資料のうち公害に関連する資料だけを四日市環境学習センターの90平方メートルのスペースに昨年収めることになった。公害訴訟の記録や患者の生活と意見の聞き取りなど、資料としてはそれなりに整っていると思う。しかし、本当は公害の資料だけではなく、どういう状態で公害問題が発生したのか、行政のどういった動きの中で公害が出てきたのかという全体の資料がないとなかなか理解できないものではない。また、資料は一応揃っているが「こつこつ」資料がみたくて「こつこつ」という資料がみたくていく。行政にしても企業にしても



(全国公害弁護団連絡会議代表委員)

も「もう公害は終わった」という風になっている。しかし相変わらず公害が続いている。行政の不作為もあって、市内の産廃業者による大変大きな産廃投棄が明らかになった。こういう問題が起こると、とたんに放送局や新聞社から「石原産業が廃硫酸を垂れ流した排水口の昔の写真はないか」というような問合せがあり、まるで資料係みたいなことになって大変だ。こういうところは資料室で対応してほしいと思う。

最近では小学生の社会科見学の対応を環境学習センターから丸投げ的に依頼されている。それでボランティアで対応している。昨年の1月に公害資料室が出来たが、資料の活用のために一体我々に何ができるのか、ということは今痛感している。そこで、何とか資料を活用できるような方法をこれから考えていきたい。

(四日市公害を記録する会代表)



行政にしても企業にしても

## シンポジウムから



## 公害患者の思いから資料館オープンへ

ながの ちよこ  
永野千代子

私たちの西淀川の公害資料館ができたのは、本当にうれしい。21年間の裁判闘争の資料とか30数年間の大阪の公害闘争、全国の公害闘争の資料が一目でわかる。こんな資料がほしいなと思ったら、検索してすぐに見られる。本当にうれしいことだ。

二十年前は赤とか黄色、青、白の煙が立ち上っていて、淀川渡って西淀川を見ると、「あっ西淀川火事や」というくらい真っ赤

のだが、しかし、その資料(裁判資料や原告や被告の氏名や病状)を誰でも見ることが出来るのか、ということ残念ながら無理である。

水保病の研究者をしている方々に限ってお見せしているのが現状である。

私自身非常に貴重だと思っている資料に近喜代一さんという方の日記がある。裁判の資料にも使われた。大学の先生が閲覧を希望されるが、開け閉めしていると痛みが出てくる。そこで私が全てパソコンに打ち込んで、電子ファイルで見ることができるようにした。3冊打ち込むのに2年半か

に燃えており、住民の私たちが公害病になった。今では青空がみえているが、それは我々公害病になった者が命を賭けて、あおぞら財団に委託をして、再生してもらったおかげだ。

汚されていた西淀川を後世に伝えるためにも、資料館のオープンは本当に良かった。長年の公害運動の中で私も資料を1024点寄贈した。淡路先生が資料保存は大変で

## 保存しているだけでは宝の持ち腐れ

つかだ まさひろ  
塚田 真弘

かった。ある先生からコピーしたいと希望があったが、とりあえず断った。ただし、こうした資料の取り扱いについてはなるべく早く結論を出したいと思っている。資料というのは、ただ保存しているだけでは、宝の持ち腐れだ。平成18年度は研究者の力を借りて、ホームページから検索する方法を検討したいと思っている。

(新潟県立環境と人間のふれあい館 新潟水保病資料館 館長)



廃棄するしかないといっていたが、本当に私も捨てようかと思った。引越しの為にほんまちよつとずつほかしてきた。私だけではなく、患者さん皆さんそうだったし、弁護団の方達もそう。たくさんの人たちが資料館に思いを寄せて、「これは保存してほしいな」と資料館に持ってきた。この資料館のオープンに向けて携わってくれた方々、本当にどうもありがとう。

(西淀川公害患者と家族の会事務局 長)

シンポジウムから

資料館の所在地

清流会館

〒939-2723  
富山県婦負郡婦中町萩島1000番地  
TEL・FAX 0764-65-4811  
休館日 日曜日、祝祭日  
開館時間 9:00～16:00  
来場の際はご連絡ください

神戸深江生活文化史料館

〒658-0021  
兵庫県神戸市東灘区深江本町3丁目5-7  
TEL 078-453-4980  
開館日 毎週土・日曜日のみ  
開館時間 10:00～17:00

外へ向けてもつとアピールしたい

高木 勲寛  
たかぎ くにひろ

イタイイタイ病、土壤汚染、公害防止と  
いうことでは、トータルとして進行形であ  
る。公害患者の認定は、一番近いところで  
は平成16年7月19日にあった。高齢化の中  
で患者は頑張っている。神通川の上流には  
たくさん鈹石を掘った休廃坑があり、重  
金属を含む鈹滓を堆積している。そうい  
うのがある限り我々は監視を続けていかな  
ければならない。毎年開催している「イ病セ  
ミナー」は今年25回目となる。

神通川流域カドミウム被害団体連絡協  
会の拠点としている「清流会館」は昭和51  
年に竣工した。公的な資金は一切なく、患  
者団体の賠償金を基金にして運営してい  
る。県や市町村議会には公立の資料館にす  
るよう要望を出しており、県は新潟や熊本  
に調査に行っているが、まだ実現にはほど遠  
い。というのは、「イタイイタイ病対策協  
議会が患者申請や不服申請をしているじや  
ないか。そういう中では資料館はまだでき  
ない」というのが県の主張であり、患者の



完全救済や汚染土壤の完全復元、公害防止  
協定に基づく活動に取り組み我々とは大き  
なギャップがある。  
今まで「イ病」というもの、土壤汚染とい

地域に根ざした資料館に

大國 正美  
おおくに まさみ

公害や行政の史料館でもなく地域の財産  
区がつくった史料館で、スタッフも仕事を  
持っている者が運営をするので開館は土曜  
と日曜のみである。

神戸市の一番東にあった本庄村は地域史  
の編纂をしようとしたが水害や戦争で編纂  
できなかった。1980年頃に地域の方が  
歴史をあきらかにしたいと、財産区の経費  
で村史をつくることになった。お医者さん  
からは地元史料の寄付があった。村史の編  
纂が目的だったが、たくさん史料がある



うものはこういうものだ」と、外に向けて  
アピールする機会をあまりとっていないかっ  
た。一生懸命やっているだけではいけない。  
被害団体だけではなく、たくさん住民に  
情報提供していきたい。患者が命を賭けて  
闘って得た賠償金でこの運動を続けている  
が、資金が無くなればそれで終わってもし  
いのか、という大きな問題を抱えている。

(清流会館、イタイイタイ病対策協議会  
会長)

のなら史料の公開を先にしようという発想  
だ。

当初は地元の神社の境内の80平方メートルの狭  
い史料室で、なかなか来てもらえない。待  
つのでなく友の会をつくって、地域で古い  
抜け道を発掘する様なイベントなどを積極  
的にやった。そして非常に注目を浴び、沢  
山の史料が集まり、現在は三階建ての史料  
館になった。

地域に根ざした資料館は必要だ。公害資  
料は意図的に残す努力をしないと残らな  
い。公害資料は水利などの資料のように資  
料から権利が発生するのではなく、権利を  
勝ち取っていくための権利のプロセスであ  
って、プロセスがわからないと次の公害を  
防いでいくのにどういう時点でどうい  
う対処ができたのかわからない。プロセスも  
含めた記録が次の問題を起さないと  
重要な要素になると思う。だから行政だけ

シンポジウムから



(桃山学院大学助教授)

国や自治体や被害経験を持っていない住民を含めて、様々な連携の必要があると思うが、一律に行政にやってもらえばいいという事にはならないし、むしろ行政にやってもらうことでマイナスになる事もある。それぞれの条件の中で、地域の連携を強化することに取り組みでいく必要があると感じた。

もう一つは、いろいろな地域の取り組みに関する情報ネットワーク全体を通じて、環境再生という流れが、地元で現実的に被害を受けて最初に声をあげて立ち上がった患者の皆さんの思いから出発している、ということがあらためて確認できた。その思いを活かし、生命と民主主義、あるいは地域の文化というものを各地の資料館の活動によって発展させていく、という方向で取り組まないといけないと思う。

シンポジウムのまとめ

佐賀朝

にお願いするのは逆に危険なことだ。先人の方達が命を賭けて地域を良くしたいとがんばってこられた思いというものを伝えていく顕彰と、それを二度と起こさないための検証という、二つの「ケンショウ」が必要ではないかと思う。

(神戸深江生活文化史料館副館長)

ク必要性である。それぞれの資料がどこにどんな形で存在し、どのように活用してほしいのか、を明確に

エコミューズ(西淀川・公害と環境資料館)

<http://www.aozora.or.jp/shiryou>

開館日：毎週 月曜日と金曜日(祝日は休み)

時間：10:00~17:00  
(お昼12:00~13:00は休み)

所在地：大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル5F  
JR東西線「御幣島」駅下車徒歩5分

来館の際はあらかじめ電話連絡(06-6475-8885)をお願いします。

西淀川・公害と環境資料館は、公害・環境問題史の研究に長年取り組んでいる小田康徳・大阪電気通信大学教授を館長に迎えてスタートしました。資料館はその名の通り、公害や環境問題、西淀川地域に関する資料を扱います。その名とあわせて、皆さんにより親しんでもらうと、愛称を公募で決めました。主催者の予想をはるかに上回る1403件もの応募が全国各地から寄せられました。これだけ多くの人たちが資料館の存在を知り、一人ひとりが思いをこめて愛称を考えてくれたことを、資料館にたいする大きく温かい声援だと事務局では受け止めています。

多くの中から選んだ愛称「エコミューズ」を応募したのは栃木県に住む男性で、ハガキには、「Ecological Museum(英語名)と

あおぞら財団附属 西淀川・公害と環境資料館

“エコミューズ”の愛称でスタート

どうぞエコミューズを末永くご支援ください。

「エコミューズを末永くご支援ください。」

「女神」を合わせた環境を見守る資料館であることを示す「と理由が添えられていました。ミューズは知的活動をつかさどる神々で、ミューズが集まる神殿をミュージアム(博物館)というそうです。つまり「博物館」の語源でもあるわけです。

3月18日に開催した資料館オープン記念シンポジウムで、小田館長は愛称に込める思いをこんなふうに語りました。「エコ」というのは、響きあうという意味の「エコー」ではないか。環境に関することが響きあうところ。昔の環境問題に取り組んだ人たちの心や言葉がそこに行けば響いている。そして、今その公害環境問題を何とかしようと考えている人たちがそこに行けば、またその思いが響きあう。そういう場所になるのではないか。全国にこのエコミューズがつくられていくことをめざしてがんばっていきたい」

応募愛称の紹介

大賞：エコミューズ  
最終選考の10件：  
そよかぜ / ハムエッグ / エコリア / えこりあ / みそら / 公害データ / る〜む / 西淀川コーガイブス / エコッチャ / エコアス / エコジウム

環境再生保全機構・地球環境基金 / 平成17年度地球環境市民大学校

## 「市民活動のための環境アセスメント講座」

講座内容 日時：2006年2月4日(土)、18日(土)(全2回)

	日程/テーマ	講師
第1回	第1講義(13:30~15:30) 環境アセスメントって何ですか(講義) 制度の概要と市民の役割 基本的項目・主務省令の見直し内容について SEAへの取り組み	和田 篤也氏 環境省環境影響評価 課課長補佐
	第2講義(15:45~17:45) これからのアセスと市民の役割(講義) アセスをめぐるみんなの誤解 海外の事例と日本の動向 これからのアセスのあり方 環境NPOの役割	柳 憲一郎氏 明治大学法科大学院教授 (環境アセスメント学会 理事・事務局長)
	交流会(18:00~)	
第2回	第3講義(10:30~12:30) コンサルタントの役割と努力(講義) 業務の性格と実際 よりよいアセスをめざす努力 市民意見に求めるもの	久保 英行氏 パシフィックコンサルタント(株) 環境事業本部部長
	ワークショップ(13:30~17:00) 環境省「わかりやすい方法書(良好事例)」 は本当にわかりやすいか? 話題：「参加型アセス」で行こう 作業：「良好事例」への付箋張り 作業：グループ意見の形成と発表	運営：あおぞら財団 ファシリテーター：傘木宏夫氏 NPO 地域づくり工房、 環境アセスメント学会理事

\*この講座は当財団が4年前から独立行政法人環境再生保全機構の委託で毎年開いているもので、今回は東京での開催。公害地球環境問題懇談会と環境アセスメント問題都民連絡会に現地事務局を担っていただきました。

### 活動レポート

## 市民運動のための『環境アセスメント講座』に 取り組んで考えたこと

渡辺 章

### 1、まだ市民的に認知されてい ない環境アセス制度

あおぞら財団から、東京で「環境アセスメント講座」を開催したので協力して欲しいとの依頼を受けたときは、比較的

に気が引け受けたのですが、いざ取り組みを開始すると、いかにアセス制度がまだ市民的に認知されていない制度かということを感じさせられました。私たちの取り組みの方向は、地方自治体の環境担当部門、コンサルタント関係者、アセスを経験した市民グループ、環境問題に関心のある学生とターゲットをしぼってご案内を開始しました。の学生さんは、時期はずしてしまつたことで事実上働きかけが出来ませんでした。

自治体には、案内状を送って適切な時間を見計らって環境部門に電話をかけて再度ご案内をしてみました。するその反応は、圧倒的に「そんな案内来てた」と、1件も案内を見たというところがありません。すこし内容についてお話しすると「東京はアセス条例が中心だからアセス法は関係ないよ」との反応です。たしかに東京の区市町村の環境部門の場合、その地域で環境アセスの対象事業があ

つたとしても自治体の長の意見書をまとめる程度が仕事だから関係がないというのももつとですが、環境アセスメント制度は、こんな認識のもとにあるのだということを感じさせられたのです。

### 2、講座を取り組むなかで整理 された問題意識

講座の内容とその反応については、アンケート結果にある程度集約されていますが、講座を開催する側にいた私自身も問題意識の整理に大変役立つ講座となりました。環境省の和田さんの熱意のこもつたお話は、とりわけ印象が深かつたようです。和田さんがアセス制度はコミュニケーションであると強調すればするほど、「ステークホルダーの会議を制度化」することを環境省や環境局に申し入れた私たちの活動が正当な提案であつたと思ひながら聞きました。そうした意味で、アセス制度の改善を目指す私たちの運動にもヒントとなるところがたくさんありました。

### 3、まとめ

環境アセスメント制度は、まだ市民的に認知されていないからこそ、こつた講座が必要だとおもう一方で、実際に講座に人を集めることを考えると正直二の足をふむ思いです。こんごの問題については、一緒に取り組んだみなさんの英知を集めて考えたいと思っています。

(わたなべ・あきら 環境アセスメント問題都民連絡会事務局長)





自転車で「まち」を調査する研究会のメンバー（大野川緑陰道路で）

## 活動レポート

# 西淀川地域再生研究会がスタート

清水万由子

あおぞら財団では「公害のないまちづくり」に向けた取り組みを進めてきました。

今年1月に植田

和弘教授（京都大

学大学院経済学研

究科）の呼びかけ

によりスタートし

た西淀川地域再生

研究会は、公害を

生んだまちから持

続可能なまちへの

再生をさらに一歩

進めるための指針

を明らかにするこ

とを目的としてい

ます。どうしたら

公害のないまち

づくりを進めら

れるかという観点

から、まずは土地

利用や大阪市の都

市政策を含めた地

域形成史、住民に

よるまちづくり活動の実態、それらを支える公共・民間部門の資金の流れなどについて、研究を行う予定です。いわば「西淀川徹底解剖」をめざしています。

その第一歩として、阪神・淡路大

震災記念・人と防災未来センターか

ら財団への委託調査業務「環境と防

災の統合的まちづくりのコミュニテ

ィ基礎に関する調査研究」が今年

1月から進行中です。これまでに西

淀川区役所、連合地域振興町会、緑

豊かな遊歩道をつくる会、淀川右岸

水防事務組合、西淀自然文化協会、

大阪市、患者さんへの聞き取り調査

を行ってきました。お話を伺ってい

る中で、従来は異なる政策領域とし

て扱われがちであった環境と防災

が、コミュニティの生活においては互

いに関連しあっており、統合的に

扱うべきものであるということがわ

かってきました。また、そうするう

えでの問題の所在もいくつか浮かび

上がってきています。調査は3年間

継続的に取り組む予定で、研究会での議論を互いに反映させながら進めたいと考えています。

研究会のメンバーは次の各氏です。（敬称略）

植田和弘、大久保規子（大阪大学

大学院法学研究科教授）、川勝健志

（京都府立大学助教授）、神吉紀世子

（京都大学大学院工学研究科助教

授）、白石克孝（龍谷大学法学部教

授）、馬場明男（ピース地域ブラン

ニング研究所）、藤田香（桃山学院

大学経済学部助教授）、村松昭夫

（あおぞら財団専務理事）、藤江徹

（あおぞら財団研究員）、小平智子

（同上）、林美帆（同上）、矢羽田薫

（同上）、鎗山善理子（同上）、浅木

洋祐（京都大学大学院経済学研究科

博士課程修了）、南聡一郎（京都大

学大学院経済学研究科博士後期課

程）、南慎一郎（立命館大学大学院

政策科学研究科博士課程）、清水万

由子（京都大学大学院地球環境学舎

博士課程）

研究会は月に1回のペースで開催しています。より広く深い議論を通して研究を進めていきたいと思っておりますので、関心をお持ちの方のご参加を歓迎いたします。

（しみず・まゆこ）

## ほっと ニュース

### ぜん息予防の秘訣を 講演

日本人の3人に1人がアレルギー疾患を抱えていると言われています。

2月25日(土)、国立医療

成育センター研究所免疫・アレルギー研究部長の齋藤博久先生を招き、最新のアレルギーガイドラインに沿ったぜん息の診断と治療に関する講演会を開催しました(独立行政法人環境再生保全機構主催、115人参加)。特に、ぜん息を引き起こさないため、ダニを除去する環境整備の重要性と最も有効な抗炎症薬である吸入ステロイドを、ガイドライン通り医師が推奨する量で続けることが強調されました。



後半のオープンディスカッションでは、小児ぜん息児が学校等で集団生活を送る上で生じる様々な問題に対応するため、主治医・保護者・学校関係者間での密な連携と支援が必要とされていることから、医師、養護教諭、ぜん息児を持つ保護者の立場から意見交換を行いました。

### 評議員会と理事会をで開催

2006年度の事業計画と予算を決めるための評議員会と理事会を相次いで開催しました。2月27日に開催した第17回評議員会では、冒頭、財団発足からの評議員である樋口市蔵さんの逝去が報告され、事業計画案と予算案の審議に入りました。今年度の事業計画では、「西淀川地域の再生に向けての一層の具体的な努力が求められている」として、「具体的なテーマによる地域との協働を積み上げるなかで知恵を出し合い本格的な地域再生に向けた活動を全力で行っていききたい」を基本方針に掲げています。(別紙で2006年度事業計画書) また、3月12日には第26回通常理事会を開催しました。

### おねがいとお知らせ

リベラへのご意見・ご要望または投稿をお待ちしています。また、メール通信「あおぞらEXPRESS」を開設しています。ぜひご利用下さい。

配信を希望される方は

<http://groups.yahoo.co.jp/group/aozora-mail/>

から登録できます。

## リリース

### 楽しむ心

森脇 君雄(漢雲)



あおぞら財団の設立から10年の節目に「西淀川・公害と環境資料館」がオープンすることになり、「歴史に残る施設」に掲げる「表札」を書くことになった。

あれこれ考える間もなく、村松昭夫専務理事が知人に手配した檜板が届けられた。「表札」の素材は丸太の名残が残る自然木で幅が違っていた。墨が滲むので白墨をぬり、覚悟を決めて「西淀川」と書いた。固い!「公害」も思うように書けない。気を取り直して、ひらがなと「環

境資料館」は固唾をのんで見守っていた職員と話しながら楽しんで書いた。

話は変わるが最近、NHKが放映している韓国ドラマ「チャングムの誓い」にはまっている。映像だけで飽きたら、原作も読んでみた。その中に論語(雍也篇より)「知之者不如好之者、好之者不如乐之者」が紹介されている。学び好きになること、そしてなによりも楽しむ心が大切だと教える「チャングム」は面白い。

(もりわき・きみお 財団理事長)

- 1日(水) 事務局会議
- 4日(土) 横浜市衛生局来所
- 6日(月) 拡大事務局会議  
第二回西淀川地域再生研究会(参加)
- 7日(火) DESD(国連持続可能な開発のための教育)国内実施計画の策定に  
ついての意見交換会 in 近畿(参加)  
子どもの参画べんきょう会
- 8日(水) 環境教材ビデオ活用研究会
- 9日(木) 尼崎道路連絡会(参加)  
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター土居悟先生取材
- 10日(金) 西淀川高校校外学習(講師:上田、林)  
道路環境市民塾運営会議合宿「平成18年度の企画づくり」
- 13日(月) 長期的聞き取り法による花粉症環境基礎調査第3回検討会  
大阪大学・大久保ゼミ視察受け入れ
- 14日(火) 事務局会議
- 15日(水) 西淀川公害に関する学習プログラム研究会
- 17日(金) 地域資料シンポ第7回準備研究会  
(財)地球環境センターのヒアリング
- 18日(土) 矢倉海岸定例探鳥会(参加)  
ソラダス第2回実行委員会(参加)
- 20日(月) シンポジウム「プロドライバーによるデジタコ・エコドライブから見えてきたこと」
- 21日(火) 事務局会議
- 24日(金) 第2回寄せ植え教室
- 25日(土) ぜん息等予防講演会 - 子どものぜん息SOS -
- 27日(月) 評議員会
- 28日(火) 事務局会議

2月

事務局日誌

3月

- 1日(水) 資料館事務局会議
- 6日(月) 拡大事務局会議  
第三回西淀川地域再生研究会(参加)
- 9日(木) てづくりせっけん教室
- 10日(金) ソラダス2006西淀川実行委員会
- 12日(日) 理事会
- 14日(火) 事務局会議
- 15日(水) 西淀川発!地域で進めるエコドライブ報告会  
西淀川道路環境対策検討会
- 17日(金) 第3回寄せ植え教室  
ESTステーキホルダー会議(参加)3/17-18
- 18日(土) 西淀川・公害と環境資料館オープン記念シンポジウム、オープンセレモニー
- 22日(水) ソラダス2006西淀川学習会  
事務局会議
- 25日(土) ソラダス実行委員会  
公害認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究検討会
- 28日(火) 事務局会議  
フードマイレージ教材化研究会
- 29日(水) 道路環境市民塾運営会議
- 31日(金) 第28回西淀川地域研究会

【編集後記】

評議員の樋口さんに続いて林さんを見送りました。林さんのお見舞いにいったのは3月末、ベッドに寝たままでしたが復帰後の計画を力強く語られる姿に、そばで聞いていた息子も「おっちゃんすごい!」と感嘆していました。まさかの急変、さぞかし悔しかったことでしょう。偉そうに「遺志を...」などとは言いませんが、貴方が毎年心を砕いて準備していた公害被害者総行動デーにことしも参加します。(T)

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会(日本野鳥の会大阪支部との共催、毎月第3土曜日開催)

日時: 5月21日(土) 午後1時30分  
〜4時30分

講師: 望月真一氏(カーフリーデー  
日本公式コーディネーター)

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

第1回「カーフリーデーから  
道と交通を考える」

訃報

当財団評議員  
樋口市蔵さん(2006年2  
月18日、享年97歳)  
林功さん(2006年4月4  
日、享年64歳)  
が、お亡くなりになりました。  
ご冥福をお祈りします。

日時: 5月21日(土) 午前9時30分  
〜12時30分(現地解散)

日時: 6月18日(土) 午前9時30分  
〜12時30分(現地解散)

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

日時: 7月23日(日) 午後1時30分  
〜4時30分

お礼

下記の方々から寄付・寄贈をいただきました。(2006年2月・3月) 心から御礼を申し上げます。

相川泰、入江智恵子、笠井俊彦、  
片岡直樹、佐賀朝、澤井余志郎、  
清水和作、関上哲、高木勲寛、武  
田博志、土居悟、馬場明男、原田  
智代、八木一夫、山崎圭一、(株)  
デイス、交通エコーロジ・モビ  
リティ財団、佃小学校、(財)日立  
環境財団

『Libella』No.90 2006年5月号(隔月1日、年6回発行)

発行所 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

編集人 上田敏幸

大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル4階

Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885

http://www.aozora.or.jp/

E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション

定価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。

郵便振替口座 00960-9-124893(加入者名 あおぞら財団)

乱丁・落丁はお取り替えします。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



エコミューズ(西淀川・公害と環境資料館)館長。  
大阪電気通信大学教授(日本近代史)。NPO旧真  
田山陸軍墓地とその保存を考える会理事長。  
日本の公害問題史の数少ない研究者として着実か  
つ科学的な研究活動を続けている。近年着手した  
戦前の帝国議会での公害・環境問題に関する議論  
のデータベース化は注目を集めている。

お だ やす のり  
小田 康徳

## 館の発展は私の一生のテーマに合致し、 さらにもっと大きな意味を持っている……

今年が成年。私の当たり年です。それも第五回目の当たり年を迎えました。

そうです、私は今年還暦を迎えているのです。

昨年といったたか、誰かが人間六十を過ぎると人が優しく接してくれるようになるなんてしゃべっているのを聞いて、そうかなと思っていたのですが、それはもつまつたか間違つた認識であつたことを思い知らされています。

分かつていないことを明らかにする喜び

今年に入るころから、本当に休む間もなくなりました。いろんなことに頭を使い、気を回す生活が続いています。それらについて、人に聞いて欲しい、癒して欲しいという気持ちも強くなります。しかし、もういちいち数え上げることはやめましょう。ただ、えらい激務になつてきました。ただ、ものは考えようです。

私は、私の人生を歴史学の究明に費やしてきました。それは本当に楽しいものでした。分つていなかったことを明らかにする喜び、これはやったことのある人にしか分らない気持ちでしょう。私は、なんとかその全体的な発展にすこしでも貢献していくことを願っているんなことをやってきたように思っています。そして、いまいろいろ抱えていることも、すべてこの線上に広がってきたものばかりです。

エコミューズを開館し、新しい飛躍を

いまは、自分の認識の広がりや深化も求めています。全体としてのその方向

への条件整備、進歩の実現を強く願っています。今年三月十八日、本財団においてエコミューズを開館し、過去十年近くわたる資料収集・整理や利用体制の構築を受けて新しい飛躍を目指すこととなりました。私は、はからずもその館長という名誉ある職を戴くことになり、ひしひしとその責任の重さを感じているところです。この館は、まさしく歴史学にとつても、その深化・発展に大きな役割を果たすものです。

西淀川公害患者と家族の会およびこれが提起した大気汚染裁判は、戦後の公害問題解決に大きな役割を果たし、国民の意識を環境優先へと変える上でも他の住民運動とともに画期的な役割を果たしました。エコミューズはこうしたことを研究し調査するうえでの根幹になる施設です。この館の発展は私の一生のテーマに合致し、さらにもっと大きな意味を持っているに違いありません。職員の皆さんとともにできる限り力を注いでいきたいと考えています。

ホームページ「猪名川歴史研究所」

<http://www.jittk.zaq.ne.jp/bacas40/>



館名をシンポジウムで披露する筆者(右)